

早稲田大学 法学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	大問4問中,政治・憲法分野からの出題が3問。経済分野からの出題が1問。大問数は例年と同じ。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	基本的人権 新しい権利	一部に時事的知識を問う設問もあるが,用語集レベルの知識があれば対応できる。 問10の設問も推定すれば解ける。	標準
II	国際社会と法 国際刑事裁判所	問4,問7,問8などはやや踏みこんだ知識が必要である。国際刑事裁判所は頻出している。	標準
III	公害問題 外部不経済	問2「外部不経済」は記述問題で頻出。 問5は難問。問3,B・C,問7,問8はつながりがある。問3を間違えば問7,問8もミスする。注意。	やや難
IV	基本的人権 法の下での平等 財産権	日本国憲法第14条の「法の下での平等」と財産権,判例などの基礎知識がヒントとなる。 問4は,「財産のかたより」「貧富の格差」「富裕層が生れる」から推論できる。	やや難

*難易は,用語集の頻出度,各大学の出題傾向とレベルから判断

〔総合コメント〕

<p>知る権利,環境権,国際刑事裁判所などの時事問題は,入試で頻出されている分野。 字数限定の記述問題はやや難しいかもしれないが,全体的にレベル,内容ともに受験レベルの範囲内からバランスよく出題されている。 努力が結果に反映する良問が多い。</p>
--